

II. 事業評価個表

番号	措置名	補助金事業名					
1	給付金加算等措置	原子力発電施設周辺地域加算給付金交付事業					
補助事業者名又は間接補助事業者名		いちき串木野市					
補助事業実施場所		いちき串木野市 羽島・荒川地区					
補助事業の概要		小売電気業者等から電気の供給を受けている一般家庭、工場等に対する給付金					
補助事業に係る主要政策・施策と目標		小売電気事業者等から電気の供給を受けている住民・企業等に給付金を交付することで、原子力関連施設の設置・運転の理解促進を図るとともに、地域住民の福祉の向上を図ります。					
事業開始年度		令和3年度	事業終了(予定)年度		令和3年度		
事業期間の設定理由							
補助金事業の成果目標及び成果実績	成果目標	成果指標		単位	評価年度	令和4年度	
	給付金を必要とする者への支給率 100%	支給実績による	成果実績	%	100		
			目標値	%	100		
			達成度	%	100		
	評価年度の設定理由						
	毎年度のPDCAサイクルによる事業改善を図るため、事業実施翌年度早期に評価を実施。						
	補助事業の定性的な成果及び評価等						
	当該地区の電灯需要家及び電力需要家に対して、従来の原子力立地給付金に加算(電灯需要家1戸あたり250円・電力需要家1kWあたり63円)することで、住民の不均衡感を取り除き、地区住民の生活の安定を確保するとともに、原子力発電の必要性についての理解につながり、地域住民の福祉の向上を図ることができました。						
	加算給付金交付実績 ・電灯需要家3,528,000円(250円×14,112戸) ・電力需要家1,007,316円 ① 1kWあたり(63円×15,990kW=1,007,370円) ② 0.5kW減額調整(0.5円×9口×12月=54.0円) ③ ①-②(1,007,316円-42円=1,007,316円)						
	評価に係る第三者機関等の活用の有無						
無							
補助事業の活動指標及び活動実績	活動指標			単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	加算給付金の給付額 (電灯需要家契約口数×250円+電力需要家契約kW数×63円)		活動実績	円	4,605,675	4,620,198	4,535,316
			活動見込	円	5,299,689	5,275,689	5,346,930
			達成度	%	86.9%	87.6%	84.8%
補助事業の総事業費等		令和元年度	令和2年度	令和3年度	備考		
総事業費		5,564,974	5,405,660	5,021,119	3ヵ年合計(15,991,753)		
補助金充当額		5,564,974	5,405,660	5,021,119			
うち文部科学省分							
うち経済産業省分		5,564,974	5,405,660	5,021,119			
補助事業の契約の概要							
契約の目的		契約の方法		契約の相手方		契約金額	
加算給付金の交付		補助		一般財団法人電源地域振興センター(東京都中央区)		5,021,119	
補助事業の担当課室		いちき串木野市企画政策課					
補助事業の評価課室		いちき串木野市企画政策課					

II. 事業評価個表

番号	措置名	補助金事業名					
1	公共用施設に係る整備、維持補修又は維持運営等措置	市道平江1号線道路改良事業					
補助事業者名又は間接補助事業者名		いちき串木野市					
補助事業実施場所		いちき串木野市平江地内					
補助事業の概要		市道平江1号線は、路面等の老朽化に伴い、近隣の住宅では、大型車両の通行時に大きな振動が発生していることから、改修事業に電源立地地域対策補助金を充当し、舗装等の整備を行い、住環境の改善を図りました。 (事業量) 施工延長 L=263.5m W=3.14~6.33m A=981㎡ 排水工(落蓋300型 縦断・横断)L=267m					
補助事業に関する主要政策・施策と目標		いちき串木野市第2次総合計画(前期計画)(平成29年度~令和3年度) 第2部 基本計画 第4章 利便性が高く美しいまちを創造する「快適な環境のまちづくり」 第1節 社会基盤 1) 道路・交通網の整備 1)-1 道路 基本的方向 市道については、周辺部への配慮や地域間の交流、円滑な移動の実現を目指し、集落間のネットワーク道路として計画的な整備を図るとともに市外地内の老朽化した側溝及び舗装の整備を行います。 主要施策 (2)生活道路の充実 ①生活道路の改良及び整備改修(側溝・舗装)					
事業開始年度		令和3年度	事業終了(予定)年度		令和3年度		
事業期間の設定理由							
補助金事業の成果目標及び成果実績		成果目標	成果指標	単位	評価年度	令和4年度	
		市道平江1号線における安全に通行できる道路の割合100%	安全に通行できる道路延長/路線延長×100	成果実績	%	100	
				目標値	%	100	
				達成度	%	100	
		評価年度の設定理由					
		事業完了が年度末となるため、事業実施翌年度に評価を実施。					
		補助事業の定性的な成果及び評価等					
当事業において舗装等の整備を行い、老朽化していた路面を改良したことで、車両走行時の安全性が向上し、また、近隣住宅への振動や騒音の減少にもつながりました。 今後も、老朽化した舗装や側溝の整備に努めます。							
評価に係る第三者機関等の活用の有無							
無							
補助事業の活動指標及び活動実績		活動指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度
		市道平江1号線における道路整備延長	活動実績	m	-	-	263.5
			活動見込	m	-	-	260.0
		達成度	%	-	-	101.3%	
補助事業の総事業費等		令和元年度	令和2年度	令和3年度	備考		
総事業費		0	0	19,552,000			
補助金充当額		0	0	16,000,000			
うち文部科学省分							
うち経済産業省分		0	0	16,000,000			
補助事業の契約の概要							
契約の目的		契約の方法		契約の相手方		契約金額	
道路維持工事		条件付一般競争入札		(有)古川建設(いちき串木野市)		19,552,000	
補助事業の担当課室		いちき串木野市都市建設課					
補助事業の評価課室		いちき串木野市都市建設課					

II. 事業評価個表

番号	措置名	補助金事業名						
1	公共用施設に係る整備、維持補修又は維持運営等措置	市道島内松原線道路改良事業						
補助事業者名又は間接補助事業者名		いちき串木野市						
補助事業実施場所		いちき串木野市大里地内						
補助事業の概要		市道島内松原線は、近隣地域の生活道路であり、他地区とを結ぶ幹線道路である。また道路沿線には企業や商業施設も隣接し、大型車両の通行も多い路線であるが幅員が狭く乗用車と大型車両との離合に支障をきたしていることから、改修事業に補助金を充当し、道路拡幅等の整備を行い、住環境の改善を図りました。 (事業量) 施工延長 L=216.5m W=8.75m 舗装工(路盤工)A=367.0㎡ 排水工(落蓋300型)L=149m 排水工(自由勾配300型)L=25m						
補助事業に関係する主要政策・施策と目標		いちき串木野市第2次総合計画(前期計画)(平成29年度～令和3年度) 第2部 基本計画 第4章 利便性が高く美しいまちを創造する「快適な環境のまちづくり」 第1節 社会基盤 1) 道路・交通網の整備 1)-1 道路 基本的方向 市道については、周辺部への配慮や地域間の交流、円滑な移動の実現を目指し、集落間のネットワーク道路として計画的な整備を図るとともに市外地内の老朽化した側溝及び舗装の整備を行います。 主要施策 (2)生活道路の充実 ①生活道路の改良及び整備改修(側溝・舗装)						
事業開始年度		令和3年度	事業終了(予定)年度		令和3年度			
事業期間の設定理由								
補助金事業の成果目標及び成果実績		成果目標	成果指標	単位	評価年度	令和3年		
		市道島内松原線における安全に通行できる道路の割合 100%	安全に通行できる道路延長/路線延長× 100	成果実績	%	100		
				目標値	%	100		
				達成度	%	100		
		評価年度の設定理由						
		事業完了が年度末となるため、事業実施翌年度に評価を実施。						
		補助事業の定性的な成果及び評価等						
当事業において道路拡幅等の整備を行ったことで、乗用車と大型車両との離合時の安全性が向上しました。 今後も、老朽化した舗装や側溝の整備に努めます。								
評価に係る第三者機関等の活用の有無								
無								
補助事業の活動指標及び活動実績		活動指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
		市道島内松原線における道路整備延長		活動実績	m	-	-	216.5
				活動見込	m	-	-	217
				達成度	%	-	-	99.8%
補助事業の総事業費等		令和元年度	令和2年度	令和3年度	備考			
総事業費		0	0	19,008,000				
補助金充当額		0	0	16,000,000				
うち文部科学省分								
うち経済産業省分		0	0	16,000,000				
補助事業の契約の概要								
契約の目的		契約の方法		契約の相手方		契約金額		
道路維持補修工事		条件付一般競争入札		久木園建設株式会社(いちき串木野市)		19,008,000		
補助事業の担当課室		いちき串木野市都市建設課						
補助事業の評価課室		いちき串木野市都市建設課						

II. 事業評価個表

番号	措置名	補助金事業名					
1	公共用施設に係る整備、維持補修又は維持運営等措置	市道昭和通・住吉町2号線道路改良事業					
補助事業者名又は間接補助事業者名		いちき串木野市					
補助事業実施場所		いちき串木野市昭和通地内					
補助事業の概要		市道昭和通・住吉町2号線は、路面等の老朽化に伴い、近隣の住宅では、大型車両の通行時に大きな振動が発生していることから、改修事業に補助金を充当し、舗装等の整備を行い、住環境の改善を図りました。 (事業量) 施行延長 L=125.5m W=4.8m A=610㎡ 排水工(可変側溝300型)L=8.0m 排水工(落蓋300型)L=242m					
補助事業に関する主要政策・施策と目標		いちき串木野市第2次総合計画(前期計画)(平成29年度～令和3年度) 第2部 基本計画 第4章 利便性が高く美しいまちを創造する「快適な環境のまちづくり」 第1節 社会基盤 1) 道路・交通網の整備 1)-1 道路 基本的方向 市道については、周辺部への配慮や地域間の交流、円滑な移動の実現を目指し、集落間のネットワーク道路として計画的な整備を図るとともに市外地内の老朽化した側溝及び舗装の整備を行います。 主要施策 (2)生活道路の充実 ①生活道路の改良及び整備改修(側溝・舗装)					
事業開始年度		令和3年度	事業終了(予定)年度		令和3年度		
事業期間の設定理由							
補助金事業の成果目標及び成果実績		成果目標	成果指標	単位	評価年度	令和4年	
		市道昭和通・住吉町2号線における安全に通行できる道路の割合100%	安全に通行できる道路延長/路線延長×100	成果実績	%	100	
				目標値	%	100	
				達成度	%	100	
		評価年度の設定理由					
		事業完了が年度末となるため、事業実施翌年度に評価を実施。					
		補助事業の定性的な成果及び評価等					
当事業において舗装等の整備を行い、老朽化していた路面を改良したことで、車両走行時の安全性が向上し、また、近隣住宅への振動や騒音の減少にもつながりました。 今後も、老朽化した舗装や側溝の整備に努めます。							
評価に係る第三者機関等の活用の有無							
無							
補助事業の活動指標及び活動実績		活動指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度
		市道昭和通・住吉町2号線における道路整備延長	活動実績	m	-	-	125.5
			活動見込	m	-	-	125.5
			達成度	%	-	-	100.0%
補助事業の総事業費等		令和元年度	令和2年度	令和3年度	備考		
総事業費		0	0	16,500,000			
補助金充当額		0	0	14,000,000			
うち文部科学省分							
うち経済産業省分		0	0	14,000,000			
補助事業の契約の概要							
契約の目的		契約の方法		契約の相手方		契約金額	
道路維持補修工事		条件付一般競争入札		(株)西別府弘組(いちき串木野市)		16,500,000	
補助事業の担当課室		いちき串木野市都市建設課					
補助事業の評価課室		いちき串木野市都市建設課					

II. 事業評価個表

番号	措置名	補助金事業名					
1	公共用施設に係る整備、維持補修又は維持運営等措置	市道緑町・塩屋町1号線道路改良事業					
補助事業者名又は間接補助事業者名		いちき串木野市					
補助事業実施場所		いちき串木野市昭和通地内					
補助事業の概要		<p>市道緑町・塩屋町1号線は、路面等の老朽化に伴い、近隣の住宅では、大型車両の通行時に大きな振動が発生していることから、改修事業に補助金を充当し、舗装等の整備を行い、住環境の改善を図りました。</p> <p>(事業量) 施工延長 L=150m W=4.8~4.97m A=740㎡ 排水工(落蓋300型)L=202m 排水工(横断暗渠300型)L=15.5m</p>					
補助事業に関する主要政策・施策と目標		<p>いちき串木野市第2次総合計画(前期計画)(平成29年度~令和3年度) 第2部 基本計画 第4章 利便性が高く美しいまちを創造する「快適な環境のまちづくり」 第1節 社会基盤 1) 道路・交通網の整備 1)-1 道路 基本的方向 市道については、周辺部への配慮や地域間の交流、円滑な移動の実現を目指し、集落間のネットワーク道路として計画的な整備を図るとともに市外地内の老朽化した側溝及び舗装の整備を行います。 主要施策 (2)生活道路の充実 ①生活道路の改良及び整備改修(側溝・舗装)</p>					
事業開始年度		令和3年度	事業終了(予定)年度		令和3年度		
事業期間の設定理由							
補助金事業の成果目標及び成果実績		成果目標	成果指標	単位	評価年度	令和3年度	
		市道緑町・塩屋町1号線における安全に通行できる道路の割合 100%	安全に通行できる道路延長/路線延長×100	成果実績	%	100	
				目標値	%	100	
				達成度	%	100	
		評価年度の設定理由					
		事業完了が年度末となるため、事業実施翌年度に評価を実施。					
		補助事業の定性的な成果及び評価等					
		<p>当事業において舗装等の整備を行い、老朽化していた路面を改良したことで、車両走行時の安全性が向上し、また、近隣住宅への振動や騒音の減少にもつながりました。 今後も、老朽化した舗装や側溝の整備に努めます。</p>					
評価に係る第三者機関等の活用の有無							
無							
補助事業の活動指標及び活動実績		活動指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度
		市道緑町・塩屋町1号線における道路整備延長	活動実績	m	-	-	150
			活動見込	m	-	-	150
			達成度	%	-	-	100.0%
補助事業の総事業費等		令和元年度	令和2年度	令和3年度	備考		
総事業費		0	0	15,550,000			
補助金充当額		0	0	12,339,229			
うち文部科学省分							
うち経済産業省分		0	0	12,339,229			
補助事業の契約の概要							
契約の目的		契約の方法		契約の相手方		契約金額	
道路維持補修工事		条件付一般競争入札		串木野建設工業株式会社(いちき串木野市)		15,550,000	
補助事業の担当課室		いちき串木野市都市建設課					
補助事業の評価課室		いちき串木野市都市建設課					

II. 事業評価個表

番号	措置名	補助金事業名					
1	公共用施設に係る整備、維持補修又は維持運営等措置	公立学校情報機器整備事業					
補助事業者名又は間接補助事業者名		いちき串木野市					
補助事業実施場所		いちき串木野市日出町ほか2件					
補助事業の概要		<p>多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化された学習環境や学びの保障を実現するため、GIGAスクール構想により人1台タブレット端末を整備しました。 しかしながら、現在、電子黒板(大型提示装置)は1学級1台に整備できていないことから、今回電子黒板を購入することにより、授業におけるICTの効果的な活用による児童の学習意欲の向上と理解の促進を図りました。</p> <p>【電子黒板】 ・串木野小学校 学級数:22 現有電子黒板:9台 今回購入台数:6台 ・照島小学校 学級数:9 現有電子黒板:3台 今回購入台数:1台 ・市来小学校 学級数:15 現有電子黒板:2台 今回購入台数:6台</p>					
補助事業に関する主要政策・施策と目標		<p>いちき串木野市第2次総合計画(前期計画)(平成29年度～令和3年度) 第2部 基本計画 第2章 健康で文化的な生活を営める「元気で安心できるまちづくり」 第3節 教育文化 2) 学校教育の充実 主要施策 (9)教育環境の整備・充実 ③情報教育関係設備等の充実 【目標】 授業での満足度80%以上</p>					
事業開始年度		令和3年度		事業終了(予定)年度 令和3年度			
事業期間の設定理由							
補助金事業の成果目標及び成果実績		成果目標	成果指標	単位	評価年度	令和3年度	
		授業での満足度80%以上	アンケート調査による	成果実績	%	76.9	
				目標値	%	80	
				達成度	%	96.1	
		評価年度の設定理由					
		事業実施後、学年修了までに評価を実施するため。					
		補助事業の定性的な成果及び評価等					
<p>当事業において整備された電子黒板と、GIGAスクール構想により整備されたタブレット端末を組み合わせることで、授業におけるICTの効果的な活用による児童の学習意欲の向上と理解の促進を図りましたが、わずかに成果目標を達成できませんでした。 これは、機器類の導入が年度末に近い時期であったこともあり、操作等に関する熟練不足や、既定の授業カリキュラムへの取り入れが進まなかったことが原因であると考えられます。 令和4年度以降は、操作等に関する熟練度が上がり、授業カリキュラムも当機器類ありきで計画できることから、授業での満足度も向上するものと考えられますので、今後も、公立学校で不足している情報機器の整備に努めます。</p>							
評価に係る第三者機関等の活用の有無							
無							
補助事業の活動指標及び活動実績		活動指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度
		電子黒板の整備台数	活動実績	台	—	—	13
			活動見込	台	—	—	13
達成度	%		—	—	100.0%		
補助事業の総事業費等		令和元年度	令和2年度	令和3年度	備考		
総事業費		0	0	6,721,000			
補助金充当額		0	0	6,006,000			
うち文部科学省分							
うち経済産業省分		0	0	6,006,000			
補助事業の契約の概要							
契約の目的		契約の方法		契約の相手方		契約金額	
公立学校情報機器整備		指名競争入札		(株)エム・エム・シー(鹿児島市)		6,721,000	
補助事業の担当課室		いちき串木野市教育委員会教育総務課					
補助事業の評価課室		いちき串木野市教育委員会教育総務課					